

学校番号				
3	1	0	0	4

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月25日
札幌市立啓明中学校

1 学校教育目標

「将来に希望をもち、豊かな知性を磨く生徒」(知) 「自分に厳しく、他をおもいやる生徒」(徳) 「ねばり強く、心身をたくましくきたえる生徒」(体)	【校訓「独立自往」】 【今年度の学校づくりに向けた実践目標】 「日本一、笑顔あふれる学校」 ～学校づくりの＜主人公＞として仲間と共に歩む生徒～
--	--

2 学校運営方針

(1) 学校づくりの＜主人公＞としての意識の醸成 (2) 知・徳・体の調和のとれた育ち (ア) 学力の育成 (イ) 豊かな心の育成 (ウ) 健やかな体の育成 (3) 信頼される学校の創造 (4) 働き方改革の視点からの環境整備の推進
--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	主体性、協働性の育成を重視した教育課程の検証や見直しを適宜進め、実践目標が適切に達成されるよう努力している。	A	今年度も生徒の主体的な学級活動や自主的な生徒会活動、生徒会行事の取組の充実に向けた教育課程を重視し、生徒の主体性や協働性の育成を図ってきた。教育課程検討委員会を適宜開催し、行事の精選、学活や総合的な学習の時間の年間計画見直し等を進めている。学校評価アンケートの「修学旅行・宿泊学習・校外学習などの行事が有意義なものである」の質問に対し、肯定的な回答は、生徒では昨年度の92.1%よりさらに2.4ポイント増加し94.5%、保護者では昨年度の87.3%より、7.1ポイント増加し94.4%となった。	A	A
	学級・学年PTA懇談、学校だより・学校ホームページなどを通して、本校の教育実践等をわかりやすく保護者、地域、関係小学校に伝えている。	A	ホームページの更新、学校・保護者間連絡システム「すぐる」のデータ送信にて学校の様子や生徒の活躍の姿、PTA活動、緊急性の高い連絡を保護者や地域に伝えてきた。保護者アンケートによると「学校だよりやホームページを見ている」という保護者が昨年度の71.1%よりさらに3.1ポイント増加しており、データでの配信、ホームページの掲載が効果を生んでいることがわかる。今後はより内容を精選し、有用な情報を伝えていく。	A	A
	生徒、保護者の声を学校づくりに生かす「小中一貫した教育」の推進を図りながら、家庭や地域、校区内小学校との連携に努めている。	A	PTAの花壇づくりなどの各種ボランティア活動により、より良い教育環境づくりを進め、また、啓明祭・合唱の会等の行事の観覧の機会を設け、多数の保護者に来校していただき、交流や生徒の活動の様子を見ていただいた。パートナー校となっている小学校と札幌教研事業春の集会等への相互参加により、小中一貫した教育の推進を一步進めることができた。今後はコミュニティスクールの導入も視野に入れ、生徒の意見の尊重、地域と学校の連携・協働に努めていく。	A	A
	学校は、防災教育、交通事故等の未然防止など、危機管理に関する指導を行い、生徒の危険回避能力の向上に努めている。	A	今年度も、2回目の避難訓練では出火箇所を教職員と生徒に知らせない形式で行った。避難ルートを担任、生徒に判断させるとともに、実際の災害時と同様に防火扉を閉めての訓練だったため、緊張感のある訓練となった。情報モラル教室、警察の協力による非行防止教室を実施し、トラブルの未然防止、危険予測・危険回避能力の向上に努めた。施設破損時の修繕の動きを迅速に行った。また、危機管理マニュアルを熱中症に関わる部分を中心に再編集し、教員への徹底を図った。熱中症指針計を各フロア、体育館、グラウンド等にも設置した。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○ホームページはリアルタイムで更新されているので、保護者や地域に学校の様子がわかりやすくなっている。今後も継続していくとよい。 ○小学校から順次導入されるコミュニティスクールは、中学校に導入されるのが令和9年度くらいになりそうであるが、その前から学校が地域と積極的に関わることができる機会を模索していきたい。 ○防災訓練では、実際の災害を想定した訓練などを行っており、今後も継続していくとよい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒一人一人の学力の定着を目指し、少人数・習熟度別指導の活用や個別支援などを効果的に行い、学習指導と学習評価の一体化を進めている。	A	学力の定着を目指し、国語科・英語科・体育科・音楽科・美術科等で少人数指導、習熟度別学習、個別支援を行っている。英語の習熟度別学習では、生徒自身の課題に応じたコースを選択し、少ない人数でじっくりと学習に取り組むなど個別最適な学びを充実させている。今後も学習状況に応じた指導方法の改善に努め、学習指導と学習評価の一体化を進めていく。また、各教科等における学習活動において、課題探究的な学習活動を学校全体で推進していく。	A	A
	ICTを活用しながら、話し合いやふり回り活動を軸とし、生徒が主体的に参加できるような、分かりやすい授業づくりをしている。	B	様々な学習活動の中でChromebookの活用が進められており、ICT研修会で教員のスキルアップを図っている。学校評価アンケートでは、ICT機器の導入が子どもの学習の理解に役立っていると感じている保護者は昨年度より15ポイント程度増加し、74.1%となった。ICT機器を授業等に活用していると思う教師が8割程度いる一方、あまり当てはまらないは約18%であった。今後も情報モラル教育を推進し、学習活動にICT機器をより効果的に活用できるよう、校内での研修、情報共有を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○少人数・習熟度別指導では、可能な限り、生徒に対して評価の見える化に努めるとさらによい。 ○ICT活用することによって、様々なことが便利になることは明白である。生徒の学習に関しては、個々に合わせた使用方法を工夫することにより、さらに効果的であると考えている。			

生徒指導・支援	生徒がきまりやマナーを守り、多様性を認め合うことのできる学級活動や部活動等の集団づくりを生徒が自発的、自治的に行っている。	B	学校評価アンケートの「学校はきまりを守り、落ち着いて生活できる雰囲気にあるか」の質問に対し、生徒の肯定的回答が昨年度より10ポイント程度増加し71.3%となっている。2学期には「安心・安全な学級・学校づくり」に向け、生徒の主体的な話し合い活動により、学校全体で課題点と改善方法を共有し、学校生活の改善に向けた取組を行った。また、一人一人の多様性について理解を深める講演会を実施した。一方、「生活のきまり」を理解し、あいさつを心がけ、ルールやマナーを守って、安心・安全な学校生活を送っているか」では、約32%の教職員があまり当てはまないと回答した。今後も生徒が主体的にきまりやマナーを守りお互いが認め合いながらよりよい学級づくりを進めることで、絆づくりができる場や機会の提供を継続していき、教員、生徒が一丸となって問題事象の未然防止の対策を図っていく。	A	A
	教育相談係、スクールカウンセラー及び関係機関と連携するなどして、生徒の悩みや心配事を相談できる体制を整えて支援し、いじめや不登校、問題行動を防ぐための予防的な指導を行っている。	A	校内学びの支援委員会を毎週実施し、個々の生徒の悩みや課題を教職員間で共有し、スクールカウンセラーや養護教諭のアドバイスも受けながら、迅速に対応できるような教育相談体制づくりを整えた。また、いじめや問題行動に対し、各関係機関と連携し、迅速に組織で対応した。全校生徒を対象とした不安の解消や命の大切さを認識することを目的とした講演会、ソーシャルスキルトレーニング、スクールカウンセラーによる保健や特別活動の授業を実施し、生徒指導上の諸問題の未然防止的な取組を行った。今後は、いじめ防止対策委員会の定例的な開催、未然防止的な取組を計画的に実施するなどして組織的ないじめ対応を推進していく。	A	A
	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会の中で自分らしい生き方を実現できるよう、自己理解を進めながら、「人間関係形成力」、「課題対応能力」等の資質・能力を育てている。	A	日々の学習及び学級活動を通して自分のよさに気付くこと、また、集団の中での自分の役割を果たしたり、他者との関係性について考えたりして自己理解を深める。さらに、高等学校について教員から話を聞く、職業体験をする、大学に赴き学ぶ体験をする等の活動を通して将来の自分を描く活動を実施している。今後は小・中・高と自分のキャリア形成の履歴となるキャリアパスポートの記録と活用を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○生徒指導、生徒支援などにマニュアルはないので難しい局面がある。今後もアンテナを高くして、継続して推進することを期待している。 ○今年の4月から標準服が新しくなり、新たなルールも生まれてくることが予想される。生徒の声も拾いながら、ルールを決定していくとよい。			

4 学校関係者評価委員によるその他の意見

- 生徒が将来、自己の目的に適合するように情報を正しく使用できるように、情報リテラシー教育に力を入れて取り組んでほしい。
- 教師の役割分担の見直し、情報共有のデジタル化することにより、働き方改革をさらに推進してほしい。